山口県病院協会会報

2023 4月号 No.79

●発行日　令和５年４月１日
●発行所　一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814　山口市吉敷下東三丁目1番1号
●電話　083-923-3682
●FAX　083-923-3683
●発行人　三浦　修
●印刷所　大村印刷株式会社
●メールアドレス　info@yha.or.jp
●ホームページ　http：//www.yha.or.jp

医療法人山陽会　長門一ノ宮病院

〒751-0885
住　所　　下関市形山みどり町17番35号
電　話　　０８３－２５６－２０１１
ＦＡＸ　　０８３－２５６－９００４
URL：http://www.nagatoichinomiya-hp.com/

CONTENTS（目次）

会員病院紹介…… ２ページ
協会役員コーナー…… ３ページ
病院スタッフコーナー…… ４～５ページ
四県病院協会連絡協議会報告…… ５ページ
部会コーナー…… ６ページ
諸会議報告…… ７ページ
お知らせコーナー…… ８ページ

会員病院紹介

理事長挨拶

医療法人山陽会
長門一ノ宮病院
理事長・病院長
稲野　秀

医療法人山陽会長門一ノ宮病院は、一昨年８月１日に創立60周年を迎えることができました。現在まで当院の運営に直接関わってくださった職員の方々、患者様とそのご家族様、外部から支えていただいた業者の方々、行政機関や教育機関の方々、地域の方々等々、無数の方々のおかげで今日がありますことを、改めて心より感謝申し上げます。

創業者の、稲野穎弐（いなのえいじ）（1927.1.31-2014.10.5）と稲野久子（いなのひさこ）（1923.6.17-2003.3.22）がほぼ無医村状態のこの地に20床の単科精神科病院を開院したとき、周囲は農地ばかりで、西側に沿う県道は車線区分のない砂利道でした。新幹線が開業して周囲が急速に市街化するまでは、診れる範囲の身体科疾患も外来で対応しておりましたことが、後に児童精神科に携わることの源流ともなりました。

疾病性と障害性を併せ持ち、慢性経過をとることも多いという精神疾患の特性上、個々の患者様に長期間かつ生活全般にわたって関わることは他科以上に重要であると考えております。一方で、精神科救急医療や児童精神科分野においては、素早く対応して本人の苦痛と周囲の心配とを軽減させることが必要です。重症の依存症や認知症など他の専門医療機関にお任せした方がよい患者様については、適切にご紹介させていただきます。

今後とも、皆様が我々を必要としてくださる限りこの地で頑張りますので、ご指導やご意見を賜りますようお願い申し上げます。

〈病院の現状〉

１）概要

開 設 者　医療法人山陽会
　　理事長　稲野　秀
住　　所　山口県下関市形山みどり町17番35号
Ｔ　Ｅ　Ｌ　083-256-2011
Ｆ　Ａ　Ｘ　083-256-9004
Ｅ-Ｍａｉｌ　ichinomiya@nagatoichinomiya-hp.com
Ｕ　Ｒ　Ｌ　http://www.nagatoichinomiya-hp.com/
病 院 長　稲野　秀
診 療 科　精神科、児童精神科、心療内科、小児科
病 床 数　177床

２）沿革・特徴

当院は昭和36年８月１日の開業後しばらくの間は、在宅困難な精神疾患の患者様であれば疾患を問わず入院加療させていただいておりましたが、やがて、認知症性疾患とアルコールを含む薬物依存症からは徐々に距離をおき、病棟では慢性期の統合失調症の方が多数を占めるようになりました。気分障害の方の入院ももちろんお受けいたしましたが、基本的には比較的短期間で退院していかれましたので。

また、当院では昭和57年頃から、児童精神科についても継続的に診療を行なっており、地域の教育機関や児童相談所、さまざまな福祉施設、精神科・小児科の他医療機関などとよい関係を築いてきました。ご承知のように、近年、「発達障害」という概念（これは病気なのか、思考や行動の特性なのかとの議論はあります）が多くの方に知られるようになってきました。当事者の生きづらさやご家族の苦悩への対処や、職場でその能力を不自由なく発揮していただくために周囲の人が気をつけるべき事を知っていただくなど、成人の古典的な精神疾患とは少し異なったアプローチが必要です。年少のうちにきちんと診断して早くから必要な援助を行うために当院ができることは大きいと自負しております。

平成30年２月より、未成年の方の重症な種々の疾患を入院加療できるように４階病棟を改修、６月から使用開始いたしました。専門的な療養環境で、こどもたちが将来に希望をもてるようお手伝いしていきたいと思います。

さらに、精神科で対応することの多い他の疾患、例えば、感情障害・依存症・てんかん・睡眠障害などについてもこれまで通り、当院で責任を持って対応できる範囲で、患者様と相談しながら診療に当たっております。

協会役員コーナー

少子化に歯止めを

独立行政法人
地域医療機能推進機構
徳山中央病院
病院長
沼　文隆

少子化が止まりません。厚労省の人口動態調査によると、2022年の出生数が初めて80万人を割り込む見通しとなり、過去最少であった2021年の81万1604人を更に下回ることとなりました。ちなみに2021年の死亡者数は戦後最多の143万9809人で、出生数から死亡数をひいた自然増減数はマイナス62万8205人となり、大都市が一つ消滅した勘定になります。合計特殊出生率（１人の女性が生涯に産む平均的な子供の数を示す）も2021年は1.30と６年連続の低下で、これを受けて政府の「こども政策の強化に関する関係府省会議」は2023年１月19日初会合を開き、岸田首相が掲げる「次元の異なる少子化対策」のたたき台を３月末にまとめるようです。

少子化問題が初めて大きく取り上げられたのは1990年で、1989年の出生率が過去最低の1.57を記録してからです。その後も日本が少子高齢化社会となるのは自明であるにも拘わらず、30年間誰もがそのことを認識しながらも小手先の対策しか講じてこなかった付けがこの有様です。少子化の背景には未婚化・晩婚化、長時間労働、子育ての経済的負担等多くの要因があることが指摘されています。岸田首相の施政方針演説でも述べられているように、我が国は、社会機能を維持できるかどうかの瀬戸際と呼ぶべき状況に置かれています。子供を産むかどうかは、個人の自由ですが、結婚や出産を望む人がその希望をかなえられるよう、課題を洗い出し、抜本的な支援策を打ち出す必要があるでしょう。社会全体、皆で将来の世代を育てていく努力をすべきで先送りは許されないと思います。

カンシャカンゲキ!!

社会医療法人いち樹会
尾中病院
理事長・病院長
尾中　宇蘭

2020年にこのコーナーに執筆させていただいた時も、先行きが見えないコロナ禍のことから書き始めました。本年５月には感染症法上での位置付けが５類に変更され、名称も「新型」が外れ、「コロナウィルス感染症2019」に改められます。社会の対応は一つの区切りを迎えますが、３年の間に８回もの大規模な流行を引き起こし、当院を含めて多くの医療機関でもクラスターを引き起したこの厄介な感染症との付き合い方にはまだ注意が必要でしょう。

そんなコロナ禍只中であった１年前、私どもの法人は2022年度事業戦略方針の一つとして「コロナ禍における閉塞感、抑圧的な環境から脱却するため、職員ひとりひとりが『わくわく』『イキイキ』と働ける環境を形成する」を掲げました。数値目標の設定も難しく、実行難易度の高い目標で、私個人としては、「コロナ禍の出口も見えない中、『わくわく』『イキイキ』と言われても戸惑うだろう。職員に結構な無茶振りをしてしまったなぁ」と心配していました。しかし、ふたを開けてみれば、即座に組織活性化プロジェクト（通称；わくイキプロジェクト）が結成され、職員満足度調査などをもとに精力的な活動が始まりました。紙幅の制限上全てをご紹介できませんが、ひまわりプロジェクト、リレーマラソンin ときわ公園、年末大抽選会（ライブ配信あり）などなど多くのイベントで法人全体を活気づけてくれました。

結果的に、わくイキプロジェクトはかなりの成功を収めることができたと言えるでしょう。発案してくれた法人本部長、実務をサポートしてくれた経営企画室、おもてなし委員会のスタッフ、そしてなにより、困難な時期にもかかわらず、真剣に職務に取り組みつつ、気持ちを奮い立たせて前向きに頑張ってくれた全職員に理事長として心からこの言葉を送ります。カンシャカンゲキ!!

病院スタッフコーナー

「アフターコロナ」に向けて病院ホスピタリティの確立へ

社会医療法人同仁会
周南記念病院
事務部長
岡　貴之

2023年度においては、医療DX新時代･医師の働き方改革･病院BCP策定とサイバー攻撃と、課題は様々である。

2021年12月に周南記念病院の事務部長を拝命したが、2022年12月からは併設老人保健施設も兼務となった。現場たたき上げで、経営とは何ぞや？というところを壁にぶち当たりながら自分の甘さを痛感している毎日である。

それでもなんとかやっていけるところが、今日の医療介護業界の経営の甘さでもある。コロナ禍においては、隠れミノとなり、その問題は見えてこなかった。

少子高齢化における人口のピークアウトに対する地域医療構想の推進。医療介護就労人口の減少に対する医療提供体制の確保難。それらは近い将来確実に押し迫ってくる。

各医療機関の機能や立ち位置によって違うが、近年において事務方も部門の業務のプロフェッショナル化が進んできた。特にここ10年で急性期病院にDPC/PDPSが導入されて、更に進んだと思われる。

昨今では病院において多職種連携が進み、事務方の関りも多様化した。コロナ禍により必然的に傾向は強くなったように思う。

アフターコロナにおいて、医療介護業界では、自施設職員にホスピタリティが求められるところだ。自分たちが何のために働いているのか。患者や利用者のため、地域のため、自分自身家族のため。この時期だからこそ見つめ直し、更なる人財育成に努めていきたい。

精神障がい者の『生きる』を応援

医療法人清和会
吉南病院
リハビリテーションセンター
主任　猪野　睦代

昭和63年に新卒で作業療法士として入職し、現在に至ります。当初は２名、今では15名まで作業療法士も増えました。入院のみから、外来、デイケア・デイナイトケアと職域も拡大されましたが、ずっと入院部門で関わってきました。健康的な時間が送れるようになると退院に向けた支援が始まります。多職種チームの中で、作業活動を通して、集団や個人で関わります。私自身は畑作業や手工芸、生け花やレクレーションを主に担当しています。社会的入院や入退院を繰り返す方、施設入所待ちの方も多く、最近は、発達障害や適応障害の方の入院も増え、復職を見据えたり、認知機能障害に焦点を当てて関わったりと、幅広く専門的なスキルが求められます。

勤続年数ばかりが増え、何か役に立てているのだろうかと思う事も多いのですが、再入院されてきた方が、「病棟は同じだけど、看護の人はみんな変わって知らない人ばかり。でもあなたの顔を見てほっとした」と言われました。畑作業を一緒にしていたことを覚えておられたのです。また、青年期から入院されていた方が、46歳でようやく就労施設へ退院が決まった際、『本当にお世話になった』とハグされた時は感動的でした。

令和５年４月から、隣接のケアホームに異動になります。生活の場での支援の大変さは、想像できませんが、地域での引きこもり・家族支援の経験も活かせたらと期待もしています。

病院スタッフコーナー

令和４年度の試み

医療法人社団三陽会
前田内科病院
事務
西島　拓也

前田内科病院は、昭和46年（1971年）下関市に開設して、現在は療養病床43床を擁しています。法人内のクリニック２施設とともに透析医療に力を入れ地域医療に貢献できるよう、職員一同取り組んでいます。

私は、入職２年目で医事業務、経理業務を担当しています。

令和４年度の新たな試みとして、診療報酬改定に伴い新設された感染対策向上加算３の取得や、オンライン資格確認の導入を実施しました。感染対策向上加算３の取得にあたり、当院の委員会の見直しや、マニュアルの改訂、加算１取得病院との連携などに取組み、他部門を含めた諸先輩方に協力していただき無事に取得することが出来ました。取得後も、カンファレンスの参加や、連携病院の訪問ラウンドを通して、改善すべきポイントが見つかり、患者様が今よりもさらに安心して治療を行って頂ける病院を目指し、日々努力を続けています。

オンライン資格確認の導入時はコロナ禍ということもあり、業者の方と直接会ってのやり取りが困難な状況ではありましたが、事務部の上司・先輩及び業者の担当者の協力を得て、法人内の３施設全てで導入することが出来ました。

今後は電子処方箋導入の検討や、令和６年度実施予定の「医師の働き方改革」に向けて、宿日直許可の申請など、新たに行う業務が次々とありますが、日々知識をアップデートし、先輩や同僚に信頼され、病院経営に少しでも貢献していけるよう努めていきたいと思います。

四県病院協会連絡協議会報告

第26回　四県病院協会連絡協議会

令和５年１月27日（金）に、岡山・広島・山口・福岡四県の第26回四県病院協会連絡協議会が開催された。コロナ禍の影響により、３年ぶり、Zoomを使っての開催となった。

当日は、山口県病院協会より三浦会長・神徳副会長の両名が出席した。他県からは役員13名の出席があり、各県病院協会の挨拶および事業実施状況に続き、提出議題について意見交換が行われた。

各県病院協会が提出された議題は次のとおり。

１）各県病院協会の事業実施状況について　（各県資料交換・特記事項説明）
２）中・長期的視点による病院協会の運営について　（山口県提案）
３）福岡県独自のコロナ対応策とその結果　（福岡県提案）
４）９月に行ったエネルギーコスト高騰について県下会員病院へのアンケート結果について　（岡山県提案）
５）療養病床における新型コロナウイルス感染症患者に係る入院料の取扱いについて　（広島県提案）
６）その他

部会コーナー

事務長部会　第２回常任幹事会

日　　時　令和５年２月３日（金）17：00～17：30
開催場所　寿司正
【協議事項】
１．令和４年度事務長部会総会および第１回研修会について
２．令和５年度事務長部会の活動について
３．その他

事務長部会　総会および第１回研修会

令和５年２月15日（水）、山口グランドホテルにおいて、令和４年度山口県病院協会 事務長部会総会および第１回研修会が開催された。３年ぶりの集合形式での総会研修会であり、45名の参加があった。

山口県警察本部　三宅氏

デジタルデータソリューション㈱　三好氏

研修会風景

【総　会】
議題１　今年度事務長部会の活動報告について
議題２　その他

【説明会】
「山口県におけるサイバー犯罪の被害状況」
山口県警察本部　生活環境課
サイバー犯罪対策係　三宅　和成　氏

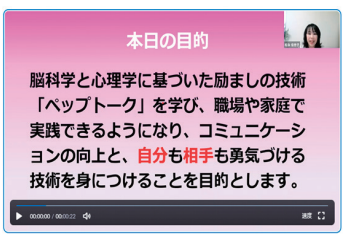
【研修会】
演　題　「医療機関における情報セキュリティの現状と対策」
講　師　デジタルデータソリューション株式会社取締役CFO
公認会計士　三好　啓喜　氏

看護部長部会　総会および第１回研修会

令和５年２月17日（金）、Zoom開催にて、令和４年度山口県病院協会 看護部長部会総会および第１回研修会が開催され、24名の参加があった。

【総　会】
議案１　今年度看護部長部会の活動報告について
議題２　その他

【研修会】
演　題　「ペップトークの効果と実践法」
講　師　一般社団法人日本ペップトーク普及協会　認定講演スピーカー
Ｋｍｉｎｄ代表　松永　佳世子　氏



研修会のZoom画面

諸会議報告

令和４年度 第３回理事会

日　　時　令和４年11月15日（火）15：30～16：20
開催場所　ＫＫＲ山口あさくら
【承認事項】
1．令和４年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2．「循環器病対策県民フォーラム・やまぐち健康経営フォローアップ講習会」の開催における共催について
【報告事項】
1．第16回医療関係団体新年互礼会について（案内）
2．事務長部会総会および第１回研修会について
3．県行政委員等の推薦について
・山口県医療審議会保健医療計画部会委員
会長　三浦　修（再任）
・山口県医療審議会医療法人部会委員
会長　三浦　修（再任）
・山口県がん対策協議会委員
常任理事　林　弘人（再任）
・山口県がん対策協議会がん登録部会委員
常任理事　林　弘人（再任）
4．県各種委員会等の結果報告について
三浦会長
・第110回山口県医療審議会医療法人部会
（10月18日）
【その他】

令和４年度　第３回情報管理委員会

日　　時　令和４年12月14日（水）15：30～16：30
開催場所　山口県総合保健会館　第２研修室
【協議事項】
1．新年号の発行について
2．４月号の発行準備について
3．その他

令和４年度　総務委員会

開　　催　令和５年３月上旬
書面開催
【議　事】
1．令和５年度叙勲受章候補者について
2．令和５年度県選奨受賞候補者の選定について
3．令和５年度県知事表彰（看護職員）推薦について
4．令和５年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
5．令和５年度病院優良職員の表彰（山口県病院協会会長表彰）について
6．令和５年度山口県病院協会事業計画（案）について
【その他】

令和４年度 第４回理事会

日　　時　令和５年３月14日（火）15：30～16：20
開催場所　ＫＫＲ山口あさくら
【議　　事】
1．山口県病院協会の令和５年度事業計画書（案）並びに収支予算書（案）の設定について
2．一般社団法人山口県病院協会選挙告示について
3．選挙管理委員長の選任について
【承認事項】
1．令和４年度山口県病院協会決算予測について
【報告事項】
1．第16回医療関係団体新年互礼会について
2．第26回四県病院協会連絡協議会について
3．県行政委員等の推薦について
・山口県救急業務高度化推進協議会委員
常任理事　西田　一也（再任）
・山口県肝炎対策協議会委員
常任理事　西田　一也（再任）
・山口県医療安全推進協議会委員
理事　橋谷田　博（再任）
4．県各種委員会等の経過報告について
三浦会長
・第２回山口県医療審議会　（12月23日）
・山口県医療対策協議会　（２月17日）
馬場副会長
・第３回県立総合医療センター機能強化基本構想検討委員会　（２月17日）
髙橋常任理事
・山口県高齢者保健福祉推進会議　（11月18日）
林常任理事
・山口県がん対策協議会がん登録部会　（１月18日）
西田常任理事
・山口県救急業務高度化推進協議会・幹事会合同会議　（２月16日）
【その他】

令和４年度　第４回情報管理委員会

日　　時　令和５年３月14日（火）16：30～17：20
開催場所　ＫＫＲ山口あさくら
【協議事項】
1．４月号の発行について
2．７月号の発行準備について
3．その他

お知らせコーナー

会員の変更

	変更後		変更前	
・山口若宮病院	理事長	壷井　英敏	理事長	岡山　彰
・岩国市立錦中央病院	病院長	池田　正仁	病院長	林　延彦

～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、事務局までお知らせください。変更届の様式は協会ホームページ（http://www.yha.or.jp）より印刷することができます。

病院協会の主な行事予定

○５月18日	第１回理事会	（会場：セントコア山口）
○６月１日	山口県病院協会定時総会	（会場：山口グランドホテル）
○６月13日	看護職員向け研修会	（会場：セントコア山口）
○６月14日	第１回情報管理委員会	（会場：セントコア山口）
○６月19日	初級職員研修会	（会場：セントコア山口）

編集後記

◆2019年末から始まった新型コロナウイルス感染症は世界中の社会生活に悪影響を及ぼし、特に医療界では多くの施設でクラスターを経験し試練の時が続きました。最近は、検査法・予防法（ワクチンも含む）、治療法がある程度定まり、ようやく収束の兆しが感じられます。◆３月13日から屋内屋外問わずにマスク着用が個人判断となりました。５月８日からは５類に分類されます。これによって、診療体制は大きく変化し医療界の混迷はまだまだ続きそうです。◆今後も各病院が連携・協力して課題を解決していきましょう。そのためにも、編集委員会では皆様に有益な情報を提供できるよう努力を重ねてまいります。引き続き、山口県病院協会会報をよろしくお願い申し上げます。（清水　昭彦）